



久野美穂

ネットワーク

通信



市議会のように
ご覧いただけます



名古屋市議員

〒454-0835 名古屋市中川区八家町3-46-2 電話：052-364-8812 ファックス：052-354-0031

80年前の公園計画に縛られ 立ち退き迫る行政

住民説明会 まるで宣言する会 困惑の声相次ぐ

この地域を公園にしますから、立ち退いてください…。約80年前の計画を今から実行に移します、と名古屋市から宣告されたら、あなたならどう対処しますか。

そんなことが、中川区松蔭地区で実際に進行しています。住民の方々の声をお聞きした久野美穂は、9月議会本会議で質問に立ちました。

中川区下之一色町松蔭地区



立ち退きを迫られている松蔭地区

昭和22年に公園計画→60年後 初めて立ち退きを告知 →更に10年経って住民説明会 令和元年からわずか3回

中川区の松蔭地区の一部が、戦後の復興都市計画の一環として、一般公園(広さ4ヘクタール)にする指定されたのは昭和22年。今から76年前のことです。この間ずっと、立ち退かなければならない約60戸の住民に、名古屋市が何をしてきたのか。昭和22年から60年放置した平成20年に、初めて「皆さんの住んでいる所は公園にする予定です」と、住民に立ち退きを告知。それから10年間は何の話もせず放置。そして、令和元年から現在までの5年間で、行った説明会はわずか3回。今は用地買収に入っています。今年6月に行われた住民説明会を覗いてみました。市から50分ほど説明があり、その後の質問時間は一人一問形式で約20分設けられました。

立ち退きの説明というより、「全体説明会は今後行わない。これからはこの手順で用地買収をしていきます」という宣言をする会の様でした。昭和22年の計画時から現在までの約80年という年月は、日本を大きく変えました。その時間の経過や社会情勢の変化を考慮せず、80年前の計画をそのまま進めていこうとする市のやり方に、久野美穂は疑問を感じました。松蔭地域の人たちに精

【皆さんの声】久野美穂は、住民説明会後に住民の皆さんにご意見、ご感想を伺いました。
・難しい専門用語で話されるから、何も分からなかった。
・70年以上も前の計画って、今頃通用するの？
・子どもがいないのに、新しい公園で誰が遊ぶの？

・どうせなら、若い元気な時に立ち退きたかった。
・住んでいる人は皆いい人ばかり。離れたくない。
・市はまるでよそ事みたい。私たちの気持ちを考えなくていい。
・この計画やめることできないの？
・住民の方々の不安や不満は、募るばかりです。

神的にも、物理的にも大変な犠牲を強いているわけです。行政にとっては、80年前の計画であろうとも決められたことだからと、粛々と計画を進めていくことが仕事とされているかもしれません。しかし、住民に対しての愛情がたりない。人間味が欠けていると言わざるを得ません。住民に寄り添ったきめ細やかな心遣いがあるべきです。

【裏面に続く】

公園計画の問題点と矛盾点



松蔭地区の公園計画地域(緑色枠内)
住民立ち退き予定地(赤色枠内)



9月議会本会議で質問する久野美穂

・未だ具体的全体図なき公園計画
 ・川面より低い地域に一次避難所
 ・良好なコミュニティ壊す冷淡さ

【表面から続く】

この強引な計画の進め方の中に、久野美穂が感じる問題点と矛盾点を、市に指摘しました。

① 住民を立ち退かせてまで作る公園全体の具体的計画図が、立ち退きの段階になっても、まだないことが一番の問題です。

② 名古屋市は、住民に立ち退きをしてもらった跡地は、一次避難地として利用できる公園を作りたいと答えました。しかし、一次避

難地にする考え方の中にこそ、しっかりと精査しなければならぬ大きな問題が潜んでいます。

というのは、この地域は、川幅が200m以上もある庄内川の堤防の真下で、川面よりも低い土地なんです。大地震が起きたら、火災よりも水害に備えなければならぬ地域だということ。市は認識すべきです。災害から住民を守る一次避難地にするのであれば、低い土地は高くするしか方法

はない、と指摘しました。市は「避難場所に利用できる広場、防火樹林帯、雨水貯留浸透施設の整備などを考えます」と、具体的な対策を明言しました。

③ この地域に暮らす人々が、ほぼ一生をかけて作り上げた良好なコミュニティを壊してしまうという認識を、行政は持つべきです。立ち退かなければならぬ夫婦世帯の平均年齢は80歳に近い。一人暮らしの女性の平均年齢は85歳です。

市は長期の放置を謝罪、住民に寄り添う対応を約束

そういう高齢の人たちに向かつて、そのコミュニティを捨てて、どこかへ行けというのは、本当にひどい話だし、命を縮めることにもなりかねません。

市の緑政土木局長は「事業着手に至るまで、長期にわたり待たせたことを申し訳なく思う。これからは、住民の皆さんの事情をしっかりと伺い、丁寧に対応していく」と、久野美穂の指摘に応えました。

副市長 現地を視察

また、松雄副市長は、久野美穂の質問予告を受けて、9月12日に現地を視察したと述べ、これまでの行政の対応を反省。お詫びと共に、今後は一人一人の住民に寄り添って、対応していくと約束しました。

いくら市民のための施策といえども、市民の犠牲の上に成り立っていることも多いということ、血の通った人間を相手にしているということを、行政の皆さんにぜひ感じて頂きたい。久野美穂は行政に強く訴え、質問を終えました。



市議会傍聴に来て頂いた皆さま 9/14



グラウンドゴルフ 久の杯開催 10/25



富田工場 (ごみ処理施設) 見学 10/27